

全日本リコ研だより第

平成27年2月1日発行 JRS編集人 小山内 任



巻 頭 言

全日本リコーダー教育研究会 会 長 牧野 光洋

「変化を力に!」

今年も全日本リコーダーコンテストが近づいてまいりました。参加団体の皆様は、コンテストに向けているいろとご準備されていることと思います。3月には素敵な演奏を聴けることを楽しみにお待ち申し上げております。

今年の干支は、象形文字で木の枝葉の茂った様を表す「未」です。この「未」の字には、豊作への願いが込められています。昨今、学校教育の現場でリコーダー人口の減少を嘆息する方々が多くなりました。その減少を食い止める使命を担っている集団こそ、本研究会であると思います。前号の会報で「復活から継続へ」と訴えました。干支にあやかり、今年をリコーダー人口の豊作の年にしたい、まさに復活をリコーダー人口の豊作の年にしたい、まさに復活をリコーダー人口の豊作の年にしたい、まさに復活をりませたいと願う次第です。さらに今年は、本研究会主催の全国研究大会が第40回の節目を迎えます。これを一つの契機として皆々様の「力」を結集したいと思います。

さて、よく先導者が言う言葉に、「努力しよう!」 「努力は嘘をつかない」というのがあります。努力と は、ある目的のために気を抜かず励むことです。た とえば、成績アップのために勉強を励んだり、仕事 の成果を得るために力を尽くしたりすることです。確 かに、これらも努力の一つですが、本当の努力とです かいでしょうか。「駄目だろうな」と諦めそうになって ないでしょうか。「駄目だろうな」と諦めそうになって も「いやいや、まだ諦めないぞ」と希望をもち、もって いる力を出し切ること!続けることです。諦めそうな ときこそ、「ここからが本当の努力だ」と。不可能を、 可能に変える瞬間です。

本研究会は、40年も地道に努力してきました。本当の努力が、試されています。「変化を力に!」今までどおりでは、変化しません!リコーダーを奏でることの楽しみを教えてくださった諸先輩方の取り組みを、現代風にアレンジして、地道に努力しましょう。テニスプレーヤーの松岡修造氏の言葉をお借りすれば、「100回叩くと壊れる壁があったとする。でもみんな何回叩けば壊れるかわからないから、99回まで来ていても途中で諦めてしまう。」諦めたら実りません。指導者自らリコーダーを吹いてみましょう!演奏の面白さが見えるかもしれません。演奏への気づきが、壁を壊す最後のひと叩きになるかもしれません。



楽譜の読み取り方

東京藝術大学、横浜国立大学講師 審査委員長 吉澤 実

コンテストでは現代曲の演奏が多くなってきました。バロック音楽では装飾法や様式を考慮した演奏法が審査の基準ともなるため、それらのリスクの少ない現代曲を選曲する傾向がみられます。現代に生きる私たちにはやはり現代曲が感覚的に表現し

やすいことや、刺激的な作品が多いからかもしれません。しかし、現代曲の解釈もその作曲技法によって演奏するにあたり様々な疑問が生まれてきます。

楽譜はあまりに情報が少ないだけに演奏者の自由な表現が可能となりますが、同時に、作曲家の意図を反映出来ているどうか疑問も出てきます。

先日、イギリスの作曲家アンドリュー・チャリンジャー氏を日本に招き、"チャリンジャー・フェスティバル"開きました。「バラード、ブルース・アンド・リフズ」他、氏の代表的な10作品の演奏を指導していただき、「横浜みなとみらいホール」で演奏会を行いまし

た。このフェスティバルのために作曲した「Patchwork」もチャリンジャー氏の指揮のもと、参加者全員で初演しました。作曲家本人の指導で演奏し、新作の初演もできたことは何よりも素晴らしく、解釈における多くの疑問点も解決することができました。

1986年に東ドイツ・ライプチッヒのホフマイスター社から出版された「a quattoro」というリコーダー4重奏作品集があります。もう少し出版が遅かったらベルリンの壁が崩壊し東西ドイツが統一の混乱の中で消失していたかもしれません。西側ではアヴァンギャルドな作風が通り過ぎていくころ、東ドイツではロマンティック・モダン様式の作品が多く作曲されていました。この曲集に載せられている5曲のリコーダーアンサンブル作品がその代表的な作品です。ヒルマー・ドレスラー、アルフレッド・ワーグナー、ギュンター・ハビッヒト、ヨセフ・ベーニッシュの4人の作品です。沖縄県のグループでは、ベーニッシュ作曲の「モザイク」がよく演奏されています。作曲家が聴いたら驚くと思われる解釈の演奏が伝統的に演奏され、時に他県のグループでも演奏されること

があります。おそらく最初に演奏したグループの演 奏録音を参考にしていることが原因と思われます。 第二楽章Freundschaftstanz(フレンドシップダ ンス)の7小節目4分の2拍子が8分の6拍子になる ところは、「8分音符=8分音符」であって「4分音符 =付点8分音符」ではありません。もし「4分音符= 付点8分音符」ならばそのような指示がなければな りませんし、「4分音符=付点8分音符」では変拍子 の面白さが無くなり、音楽的にも多くのニュアンス が失われてしまいます。特に20小節から21小節の 2連符に移行した8分の6拍子とのポリリズムの面 白さとスメタナの「バルダバ」の川の流れを彷彿と する表現が出来なくなります。コンテストの素晴ら しい演奏を参考にすることは大事なことですが、そ のまま模倣するのではなく、楽譜を改めて読み取 り、その向こうにあることを発見して演奏に反映で きるような指導が大切です。より多くの光を集めるこ とができるレンズが素晴らしい光を放つように、楽 譜からどれくらい多くの情報を読み取れるかが演 奏の課題となるでしょう。



リコーダーの魅力

文部科学省主任教科書調査官 加藤 徹也

第35回全日本リコーダーコンテストで、私は大ホールで行われた「合奏」と「五重奏以上の部」の審査をさせていただきました。いずれの演奏もそれぞれの曲の特徴を的確に捉え、持ち味を生かした素晴らしいものでした。短い演奏時間ですが、これまでの練習の成果を十分に発揮しようとする皆さんの思いが伝わってきました。

ご存じのように音楽にはさまざまなジャンルがあり、多種多様な楽器が用いられ、それぞれに特徴や魅力があります。コンテストでは、ひとときリコーダーのあたたかい音色に魅了されます。特に抒情的な旋律を奏でているところでは、何かが心に沁みてくるような気がします。

一方で「もう少し抑揚があれば…」「もう少しこの音を強調した方が…」「もう少し思いを込めて…」と感じる時があります。日頃から旋律の動きに伴う自然な抑揚を意識したり、曲想やその変化をより深く感じ取ったりすることが大切だと考えます。その上でいろいろと工夫して、より豊かな表現となるように心がけてく

ださい。

すばやい動きもリコーダーが得意とするところですね。細やかな動きをムラなく、息を上手にコントロールして吹いたり、見事な掛け合いをしている演奏に接すると感嘆してしまいます。そこに至るまでの弛まぬ努力が実った瞬間です。

発音のタイミングを揃えたり、パートの役割を意識したりするなど、アンサンブルの基本的な事柄については皆さん十分に理解されている様子が伺えます。演奏に際しては「音楽の流れ」や「ノリ」を感じることも大切な要素だと思います。コンテストでは視覚的な面からも刺激を受けるので、直立不動の姿を見るな「もう少しノリを感じてほしい…」と思います。身体を安定させることはもちろん大切ですが、音楽の流れをしっかりと意識したり、部分的に音を強調したりするところでは、ごく自然な身体の動きを伴ってもよいのではないでしょうか。「ノリ」に加えて「楽しさ」が聴き手にも伝わるとさらにいいですね。

皆さんには、手軽に演奏を楽しめるリコーダーの長所を生かして、末永く音楽を楽しんでほしいと切に思います。豊かな感性と優しい心を育み維持することは、これから先の人生を豊かで充実したものとする上で大きな支えとなることでしょう。

最後になりましたが、全日本リコーダー研究会の 益々のご発展と皆さんのご活躍を祈念いたします。



リコーダーは日本人の 音楽的な感性を生かす楽器

文部科学省教科調査官 津田正之

第35回全日本リコーダーコンテストにおきまして、小学校・中学校・高等学校と一般の部の「ソロ」と「アンサンブル」の審査をさせていただきました。リコーダーのソロやアンサンブルは、繊細な音楽表現を得意とするリコーダーの特質を生かした演奏形態です。周知のようにリコーダーは子供にとって最も身近で親しみやすい楽器の一つですが、楽器のもつ表現力が人の微妙な息遣い等に直接的に反応するために、演奏を深めれば深めるほど扱いが難しく奥深い楽器であるといわれています。今回のコンテストでは、個々人や団体で音楽性豊かなフレージング、そしてアーティキュレーションの妙を多く聴くことができ、このような豊かな音楽表現を紡ぎだす豊かな感性と表現力に感銘を受けました。

西洋の楽器であるリコーダーを、なぜ日本の子供や大人が豊かに表現できるのでしょうか。それは指導された 先生方の確かな指導力、演奏された皆様のたゆみない 研鑽の賜物であることは言うまでもありませんが、日本人 が潜在的にもつ音楽的な感性と親和性のある楽器であることも要因の一つだと感じています。先日、邦楽界の第一人者、人間国宝の富山清琴先生が、次のようにおっしゃっていました。

「日本の音楽には洋楽ほどの音のダイナミクス(強弱) はないけれど、その狭いダイナミクスの中で、微妙な音の 変化があり、それを感じ取るのが日本人の音楽的な感性 です。日本人は伝統的に狭いダイナミクスの中の細かな ニュアンスを聴き取る耳をもっています」。

リコーダーは西洋音楽で用いられる楽器であり、その様式感は日本の伝統音楽のそれとは異なります。同列に捉えられないことは承知しつつ、微妙な音色の変化、ダイナミクス、アゴーギクの変化、間の取り方など繊細な音感覚が大切にされる点では共通しています。その意味では、リコーダーは日本人に向いた楽器であると思います。

大きな声を振り絞って歌ったり、大音量で楽器を演奏したりすることだけでは、音楽的感性は高まっていきません。 繊細な音の感覚を磨いてこそ、音楽的な感性が豊かに 育まれていきます。さらに、そのことがわかる聴衆を育てていくことも音楽教育の大切な役割です。

今回のリコーダーコンテストは、リコーダーが優れた表現力と教育的な可能性を秘めた楽器あることを、皆様方の演奏から改めて実感する機会となりました。



第35回 全日本リコーダーコンテストを 振りかえって

大阪音楽大学名誉教授 北山 隆

40周年記念式典を昨年終えての今回のコンテストは気合いの入った素晴らしい演奏が多かったと思います。

前の会報に、私は昨年度の特に印象に残った演奏例として北海道の北陽中学校を挙げましたが、今年はより腕に磨きをかけ、先生の意図を見事に汲み上げて最高得点、花村賞を獲得しました。この演奏は今でも頭から離れません。また同じく合奏で花村賞を獲得した鈴鹿市立桜島小学校のブルースの歌い上げは秀逸のものでした。

大ホールでの演奏全体の印象については表彰式の 講評にも述べましたが、ミスもなく、いいトーンでバラン スもテンポも良くて…、ところが感動に結びつかない。 まっしぐらにベルトコンベアーの如く一本調子タイプの 演奏が多かったことですね。これは朗読で言えば、あら すじしか述べていないということですね。表現が十分 に出ていないのです。 音楽には山あり谷あり、また行く道のあちこちに色んな花が咲いているのです。その花達を愛でないでどうしてまっしぐらに歩くのでしょうか?

今年、あるところでスイスからリコーダー演奏家を招いて公開レッスンがあったのですが、スザートの舞曲の僅か4小節を、見事な歌い方で指導されて驚かされました。

そしてそれはルネッサンス音楽という古楽の枠の中に入れるのではなく、現代のフルートやクラリネット演奏家によるレッスンでも同じように、歌うことはいつの世も人々にとって共通の表現であることを再確認したのです。

歌う事、表現することはテンポを変えたり自由に間 をとってするものではありません。

ジャズの人たちが素晴らしく歌ったり、見事な即興 演奏で感動させるのも、確実に流れるリズム、テンポの 上でやっているのです。しかし単にメトロノームに合わ せるのではありません。

欧米の人たちにはルネッサンス音楽であろうがジャズであろうが歌うことを第一義に代々受け継いで来た、いわば先祖からの家法のようなもの。その伝統の無い私達は学んでやっと歌えるのです。文化も伝統も環境も違いますから。

嬉しい事に今回花村賞、また高得点に輝いた演奏 にはこれが見事に出来ていたと思います。

歌うあるいは表現するために様々な手段を駆使し、 そのために奏法を豊かにしたのでしょう、時にはサプライズの瞬間もありました。「表現」がそれぞれの6分間楽しめたのです。 目にも止まらぬではありませんが、鮮やかな早いパッセージをやるのもいいです。しかしもっと基本は表現、歌う事だと今回のコンテストが示してくれたと思います。

第36回ではどんな表現ができるか楽しみです。



音色を大切に

リコーダー奏者、上野学園大学講師 太田光子

私にとって3回目の審査となる今回は、「独奏・重奏部門」の審査を担当いたしました。全身全霊をこめて演奏するパワーがステージから審査員席に向かって飛んできて胸に刺さり、感動して涙が出てきそうになる瞬間が何度もありました。みなさんのリコーダーに対する熱い気持ちを痛いほど感じ、今回も幸せな気持ちで審査に臨みました。

私がリコーダーを演奏する際に最も大切にしていることの一つは、「リコーダーが本来持っている音色の美しさ」です。音色が美しくなければ、どんなにタイミングを合わせても、どんなに音楽的に練りこんでも、長時間聴いていられるものではありません。

コンテストの審査の際にも、私はそこをポイントの一つとして重要視しています。その意味で特に印象に残った団体をいくつか挙げ、講評及び感想を述べたいと思います。

小学生の部では、北海道北広島市立西部小学校のJ.van エイク作曲「フランスのクーラント」の演奏が、透明な音色がまっすぐに伸びていて美しく、勢いに乗って流れるヴァリエーションも見事でした。三重県鈴鹿市桜島小学校によるR.ドット作曲「3つのダンスとエア」は、広がりのある響きを聴かせ、それぞれのパートの大切

なモチーフをきちんと際立たせることで、声部の受け渡 しが会話のように成り立ち、立体的なアンサンブルを 繰り広げていました。

中学生の部では、新潟県羽茂中学校のJ.B.ルイエのソナタ第1番の演奏が始まった途端、たっぷりと丁寧に歌い上げていく様子に、曲の冒頭から釘付けになりました。とてもよい息の使い方をしていると思います。G.F.ヘンデルのトリオへ長調を演奏した台湾大林青少年三重奏は、しっとり美しい音色でまとめ、3人が織りなす深い響きの和音にワクワクさせられました。

高校生の部ではA.ヴィヴァルディのコンチェルトイ短調を演奏した三重県県立四日市高等学校、リコーダーの「トリプルアクセル」とも言える難所がいくつもあるこの大曲によくチャレンジしたと思います。テクニックの難しさに萎縮せず、天衣無縫で伸びやかな演奏していたのが印象的でした。また、G.Ph テレマン作曲ファンタジア第3番を演奏した兵庫県灘高等学校の、曲の緻密な構造をしっかりと把握し、低音から高音までバランスよく鳴らしてゆく様子も秀逸でした。

この場には書ききれませんが、他にもステキな演奏に多く出会えたことを、申し添えておきます。素晴らしい演奏をありがとうございました!子供たちがこのような貴重な経験を機に、これからもリコーダーを吹き続けて、ステキな音楽といつも一緒にいる大人に育っていってほしい、と心から思います。末筆ながら、コンテストに関わる先生方のご尽力、そして指導されている先生方の熱意に、感服しております。また次回どんな演奏が聴けるか、今からとても楽しみにしています。



リコーダーコンテストへの道

リコーダー奏者、東京音楽大学講師 大竹 尚之

桜が美しく咲きそろう頃、江戸川文化センターで聴く このコンテストをとても楽しみにしています。

リコーダーサウンドの持っている、この温かな包容力 は、いつも感動を喚起してくれます。今年は、大ホール審 査員でしたが、聴きながら、パーセルのミラクル性、バッハやヘンデルの深い魂への慰め、リコーダーの役割などをもう少し聴かせてもらいたいと思う時が有りました。演奏曲目に現われた、新鮮さ、躍動感、意外性、現代性なども大切ですが、リコーダーはもう少し幅広い世界を背景に持っています。

大ホールの四十三プログラム中に、チャリンジャー、シュテープス、マーシャル、金子健治、梁邦彦などの作品を良く目にしました。小ホールもほぼ同じ傾向で、今回チャリンジャーは6校、金子は5校が取り上げています。

「この曲で入賞」の道があるのでしょうか?分かりませんが、入賞へのアプローチは当たり前に、ハーモニー、入り(ザッツ)ダイナミックスの整理整頓に有るのでしょう。審査員にその極意を聞くよりも、これからアンサンブルが音楽的に発展する為の方法をお知らせした方が、ずっと効果的な気がします。

アンサンブルの将来、それは作品をどう見いだすかにかかっています。

さて、インターネットで賞を取ったリコーダーのホームページをご存知ですか?

そのmenuの素晴らしさ、提供されるの新鮮さ、そし

て簡便性は、非常に優れ抜群です。そこに書き出された 曲目の豊富さ、曲はYouTubeを通して確かめる事も出 来ますが、この柔軟さ、ぜひ1度開いて下さい。

僕はオーストラリアの中国語の先生の書いた作品にこのホームページで出会い、すっかり気に入っています。 私たちはリコーダーの素晴らしい世界をより広く知ってもらい、自ら音楽して行く事が大切なのです。

そう、リコーダーコンクールのための練習ではなく、リコーダー音楽未来の為の一歩一歩が大切なのでしょう。それが、明日のリコーダーへ繋がるただ一つの道なのですから。



リコーダーの美点を活かそう

リコーダー奏者

本村 睦幸

今年の全日本リコーダーコンテストでは、大ホールでの合奏を聴かせていただきました。独奏や重奏では、透明感があって繊細なニュアンスに富むリコーダーですが、大きな合奏になると、重厚な響きや迫力のある華やかさも感じさせることができる、実に幅広い表現が可能な楽器なのだということを改めて感じます。音程のコントロールが簡単ではないリコーダーでは、よほどしっかり練習を重ねなければ魅力ある合奏を作ることはできませんが、まずは、そこまで仕上げて来られた皆様に拍手を贈りたいと思います。

しかし、重厚さや迫力という面だけを取れば、リコーダー合奏は管弦楽にかなわないというのも厳然たる事実です。管弦楽でも吹奏楽でもできない、リコーダー合奏ならではの表現を作っていくためには、もっとリコーダーの美点を活かしていくことが必要です。そこを探求するには、一人一人が、合奏だけでなく独奏や重奏の

レパートリーも広げて、いろいろな時代のいろいろな様式で技量を広げていくことが必要です。言うまでもなく、どんな楽器も奥が深く、短期間でやれることには限界があります。特に小中高生の皆さんは、このコンテストを機に、これからもリコーダーの楽しみを深めて行ってください。

一つヒントを書きましょう。リコーダーは音程のコント ロールが簡単でないと最初に書きましたが、これも実は 弱点ではなく美点なのです。少し強く吹けば音程が高く なり、弱く吹くと音程が低くなるということは、それを精 妙にコントロールできれば、透明感の高い純正音程を 作りやすい上に、微妙で繊細なニュアンス表現が可能 になります。また、それぞれの音の音程が適切になるよ うな息で吹けば、低い音は柔らかく、高い音は輝かしく なりますから、上行はクレッシェンド、下行はデクレッシ ェンドという強弱表現が自然にできます。音程が難しい から強弱がつけられないという話を聞きますが、本当 は逆で、しっかり強弱をつけないと適切な音程が取れ ないのです。経験を重ねて、そのようなリコーダーの特 長を感じ取って、次々に身につけて行けば、それを活か した更に魅力ある演奏を作り出していけるに違いあり ません。



課題曲についての提案

リコーダー奏者

用 申 せい子

本年も非常に完成度の高い数々の演奏を聴かせて 頂き、大変濃密で有意義な1日を過ごさせて頂きました (独奏、重奏部門)。皆さんが練習を重ねて大切に吹き 込んで来た曲をほんの一瞬で採点することは容易では なかったけれども、各グループ、演奏者にどんなアドヴァ イスをすれば次へ向けて役立ててもらえるか、制限時間 内でなるべく的確な指摘が出来るよう心がけてコメントさせて頂きました。

毎回驚きを持って感じる事は、恐らくはリコーダーの プロでない先生方が、本当にすばらしい指導をされて いるということです。アンサンブルの点ではどのグルー プもぴったり息が合い、リズムも正確で、平均してこれ以 上ない程のレベルの高さに達していると思います。

これだけのアンサンブル力があるのですからそれを 最大に生かせるよう、今後は更に芸術的価値の高い作 品を課題曲として選ばれるよう提案したいと思います。 リコーダーのオリジナル曲には質の高い作品が沢山あります。そこで、膨大なレパートリーの中から、これまでコンテストであまり聴く機会がなかったけれども、今後積極的に取り入れて欲しいジャンル、曲をいくつか挙げてみたいと思います。

ルネッサンス

・パヴァーヌ、ガリアルド等の舞曲集

(A. Holborbne, J. H. Schein, S. Scheidt, M. Praetorius, W. Brade 等)

・ファンタジア、リチェルカーレ、カンツォン、イン・ノミネ 等のポリフォニー曲

(W. Byrd, C. Tye, G. Frescobaldi, A. Willaert, J. Coperario等)

・2重合奏による8声のカンツォン、ソナタ

(A. Gabrieli, G. Gabrieli, R. G. Viadana, G. Guami等)

バロック

·J. H. Schmelzer 7声のソナタ

近、現代

・H. U. Staeps 一角獣の優美さ Unicornis Gratia, ハ調のパルティータPartita in C, 3つの祭壇画 Triptychon, 15の歌曲 15 Liedweisen等、

("7つの笛の踊り"は名曲だけれども、かなり演奏されているので、それ以外の曲も採用して欲しい。)

- ・H. Genzmer, A. Cooke, G. Sauxの作品
- ·F. Geysen Periferisch Diagonaal Concentrisch 周辺的一対角線的一同心的

これらはほんの一部に過ぎませんが、どれも元々リコーダーのために書かれた名曲ばかりです。と同時に、これらを演奏するには曲の内容を十分に引き出せるような技術、曲についての理解力が求められます。どれもハイレベルな皆さんの力を、更に伸ばしてくれる作品であると思います。個人的には、アンサンブルの宝庫であるルネッサンスのポリフォニー曲を皆さんの演奏でもっと聴いてみたいと感じました。

今後もどのような素晴らしい演奏を聴かせて頂ける か、一層楽しみにしています。



今だから、 音楽頭=想像/創造力で!

リコーダー奏者

吉澤 徹

拙文を認めるにあたり、久方ぶりに昨年度のコンテスト音源を聴き直しました。私が、演奏全般に感じる中で皆さんにお伝えしたい事が、本年度のコンテストに向け、まさに追い込の練習に対し実り有るアドヴァイスとなってくれれば幸いです。

恐らく譜面を追う練習も山を越え、ひたすら安定したスキルでアンサンブルの精度を上げていく時期と思いますが、日々皆さんが実際に楽器を持つ練習とは別の時間に、今一度取り組む曲のイメージを心に想起してみて下さい。実は一通り自信を持って吹く事の出来るこの時期が、「自分の心が音楽よりも技術的作業の確認に向き、豊かな感情を聴き手の心に送り込みたいと思う気持ちをつい忘れてしまう」時期なのです。

短いメロディー毎にハミング等で歌い、音の強弱やイントネーションを確認。その通りにリコーダーを吹いているかどうか?を、確り確かめましょう。

夢中になっているとオクターブの音程が開きませんか?

難パッセージの直後にある簡単なフレーズが何か

冴えない様な気がしませんか?

長い音符に確りした役割を感じていますか? 夢中になって吹いた後の息が足らず、ギロチンの 様なブレスをしていませんか?

この様な事は目の前にある「音=音符」に集中して、その音の連なりである「音楽=イメージ」を高めて居ない時によく起きる現象です。自分の曲を所謂「俯瞰の位置で眺め、その有様を聴き手に伝える」と云う志を、先ず楽器を持たずに確認し、そのイメージを余す所無く楽器によって実音に換えてみて下さい。

アンサンブルは、全員が主役です。

内声はメロディーを操るがごとく、勇気を持ってダイナミックスの(特に心中の!)変化をつけましょう。

低声部はハーモニーを操るがごとく、特に自分とオ クターブで同音となったパートとの親和性に注意しま したさ

メロディーは全パートへ隈無く立ち寄っては各パートと会話を交わすように!

それらの事をいっぺんにではなく、ショートフレーズで先ずは二つのパートを抜き出してデュエットのように練習してみましょう!

演奏練習で行う「指と楽器で考える」事と、舞台で 対峙する聴き手を想定し、さらに楽器でなく「音楽頭 =想像/創造力で考える」事の、両輪のバランスが 取れた皆さんの演奏を、とても楽しみに、期待しており ます。

第39回全日本リコーダー教育研究会 全国研究大会「北海道・北斗大会」を終えて

大会事務局長 三笠 裕也

第39回全日本リコーダー教育研究会全国研究大会「北海道・北斗大会」が11月27日と28日、北斗市総合文化センター"かなで~る"を会場として開催されました。開催地の北斗市は、トラピスト大修道院があり、三木露風が童謡「赤とんぼ」の作詞をしたことで知られています。また、参加者の皆様にお配りした道南米「ふっくりんこ」をはじめ、肥沃で実り豊かな大地と資源豊富な海からとれる農水産物など、特産品が多数ある魅力溢れる街です。そのような地において本大会を開催できたこと、そして全国からご参加くださった皆様、大会運営にお力添えくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

今大会の主題は、「広げよう!リコーダーの世界」〜美しい響きを求めて〜でした。これまで、全日本リコーダー教育研究会が提唱するリコーダーの教育的特性を再確認し、さらにリコーダーの世界を「広げよう」のもと、主題を設定しました。また、副主題を「美しい響きを求めて」とし、器楽教育において、児童生徒が音楽的な感受をもとに主体的に美しい響きを求めて音楽表現する学習を通し、豊かな心と確かな力を育むことを目指しました。

大会1日目は、リコーダー奏者の吉澤実先生とリュート奏者の永田平八先生によるウェルカムレクチャーコンサートが行われました。 【いろいろなリコーダーの演奏とお話】【小鳥とリコーダーの演奏とお話】【いろいろな笛の演奏とお話】の3部構成で、時代背景や音楽様式などリコーダーの魅力を再確認できた素晴らしい演奏会でした。



大会2日目は、午前中に小学校、中学校、高等学校の3校種による公開授業が行われました。小学校5年「音の重なりを工夫して表現しよう」は、リコーダーをはじめ、鍵盤ハーモニカ、木琴、鉄琴など様々な楽器を用いたアンサンブルを軸として、音の重なりに焦点をあてた学習でした。中学校1年「フレーズのまとまりを感じ取って、表現を工夫して合わせて演奏しよう」は、アルトリコーダーの演奏から、お互いの表現の工夫の意図を感じ取って演奏する学習でした。高等学校1年「聴く力で演奏技術を高めよう」は、作曲者や演奏者による表現の特徴に関心をもち、旋律がもつ方向性など解釈し価値を考える学習でした。その中で、実際にゲストティーチャーとして吉澤実先生にバッハ協奏曲ニ長調第2楽章を演奏して頂き、それを聴いた生徒たちの表情、その後の演奏の変容は大きいものでした。







研究協議では、神奈川県横浜市立笠間小学校 校長 後藤俊哉様、北海道教育庁日高教育局教育支援課義務教育指導班 主査 米津理臣様、玉川大学芸術学部 教授 高須 一様の3名の先生方にご助言を頂きました。研究授業に対する成果と課題及び器楽教育のあり方について3名の先生方からの助言はもちろん、参加者の方々からも多くのご意見を頂き、充実した協議となりました。

午後からは、開会式を行った後、吉澤実先生による実技指導「リコーダーの教育的特性」~基礎から学ぶみんなのリコーダー~が行われました。吉澤先生は温かい語り口で、ときにはジョークも交えつつお話してくだらは、参加者は終始楽しく取り組み、非常におり、参加者は終始楽して、その後は、北サンブル演奏、そして吉澤実先生による公開レッフル演奏、そして吉澤実先生による公開レッフルの魅力を味わうことができました。

全体講評として、文部科学省 国立教育政 策研究所教育課程研究センター教育課程調 査官・初等中等教育局教育課程課教科調査







官 津田正之先生より、本研究大会の成果と課題、そしてリコーダー教育の歴史からこれからのリコーダーを含む器楽教育のあり方について講評を頂きました。

全体交流会では、たくさんの方々にお集まりいただき、楽しい時間を過ごすことができました。2日間を振り返ってのお話や、それぞれのリコーダー指導の実践についての交流など、会場は大いに盛り上がりました。

大会実行委員会が発足して、準備期間も非常に短かったため、至らなかった点も多数あったかと思います。渡島の実行委員の皆様、本部の皆様をはじめ、お力添え頂いたすべての皆様、そして何より大会を盛り上げてくださいました全国からの参加者の皆様に、改めて感謝申し上げます。本大会が、リコーダー教育研究の推進・発展のため、少しでもお役に立てましたら幸いです。今後も皆様からいただいたご助言やご意見をもとに、日常の実践に積極的に活用し、リコーダー教育の一層の充実を目指し研鑽を積んでいきたいと思います。本当にありがとうございました。







全日本リコーダー教育研究会役員名簿 (平成26年9月1日~平成29年9月30日)

(十成20年9月1日~十成29年9月30日)			
役職名	氏 名	担当	所属先(平成26年9月1日現在)
会長	牧 野 光 洋	m 1	足立区立千寿桜堤中学校
副会長	小山内 仁	財務 統 括	北斗市立石別中学校
	小 池 純 夫	広 報 統 括	南魚沼市立大崎小学校
	親泊明美	研 究 統 括	沖縄県リコーダー教育研究会
	日 置 美知代	事 業 統 括	三重県リコーダー教育研究会
本部役員	井 戸 正 利	財務担当(事務局長)	江東区立香取小学校
	長谷川 紘 子	事 業 担 当	八王子市立城山小学校
	樋 熊 三津男	広 報 担 当	三条市立一ノ木戸小学校
	上 江 洲 学	研 究 担 当	豊見城市立上田小学校
	漆烟友美	財 務 担 当	川崎市立東小倉小学校
	小 林 英 明	事 業 担 当	伊那市立西春近南小学校
	長 岡 むつみ	研 究 担 当	鈴鹿市立旭が丘小学校
	大 吉 幸	事 業 担 当	恵庭市立島松小学校
事務局長	井 戸 正 利	兼任	江東区立香取小学校
事務局次長	牛 田 恵 美	事 務 局	東京リコーダー教育研究会
地区担当役員	三笠裕也	北海道担当	木古内町立木古内小学校
	菅 圭	板 木 担 当	足利市立御厨小学校
	小 形 隆	茨 城 担 当	古河市立古河第二中学校
	嶋見靖之	<u> </u>	□ 古八中立百八五二十子校 □ 佐渡市立金井中学校
	石川祐子		佐坂中立並并中子校 荒川区立第九中学校
	水谷美惠子	<u>東京担当</u> 東京担当	
	後藤俊哉	<u></u>	横浜市立笠間小学校
		静岡(静岡地区)担当	静岡市立番町小学校
	山下照乃	静岡(浜松地区)担当	浜松市立佐鳴台小学校
	小 林 英 明	長野担当(兼任)	伊那市立西春近南小学校
	長岡むつみ	三重担当(兼任)	鈴鹿市立旭が丘小学校
	井 上 秀 賢	大阪・韓国担当	大阪リコーダー教育研究会
	香山美穂	兵 庫 担 当	兵庫県リコーダー教育研究会
	松本聖子	宮崎担当	宮崎市立檍中学校
	福屋博子	鹿鬼鬼鬼	鹿児島市立甲東中学校 法公共工工 双丸 光柱
	高 江 洲 博 子 劉 翠 華	沖縄担当	読谷村立古堅中学校
- t		台 湾 担 当	牧笛音楽藝術学苑
監事	馬場喜久雄		総合初等教育研究所
<u> </u>	鈴 木 栄 子		中野区立鷺宮小学校
事務局員	安藤夏生		東京リコーダー教育研究会
	安藤真由美		東京リコーダー教育研究会
	宮 下 京 子		東京リコーダー教育研究会
L	奥平あゆみ		東京リコーダー教育研究会
名誉会長	初代花村 大		故人
	二代徳山博良		故人
	三代中澤正人		板橋区文化·国際交流財団
顧問	小 原 惇		元新潟県公立中学校
	三木貞夫		元大阪市立公立中学校
	影 山 建 樹		元静岡県公立中学校
	橋 本 勤 也		元高知県公立小学校
	越 智 健一朗		元東京都公立中学校
	仲 本 朝 昭		元沖縄県公立中学校
	皆 川 昌 雄		三条市教育委員会
	森 嘉 雄		元新潟県公立小学校
名誉会員	神 正治(鹿児	島)諸岡忠教((東京) 中島 聰(東京)
			(新 潟) 門 野 フ ミ (鹿児島)
			(長野) 砂川 徹夫(沖縄)
			(東京) 近藤誠二(北海道)
相談役	吉澤実	上杉紅童	本村睦幸
	大 竹 尚 之	金子健治	吉澤徹
	北村俊彦	北山 隆	- / 1 1947
	17 17 12		

◆ 平成26年度本部役員会の報告 ◆

全国研究大会の翌日、ホテル法華クラブ函館に於いて、 総会に代わる本部役員会が開催されました。

特に、本年は役員改選時にあたることから、牧野会長の 再任を全会一致で承認し、牧野会長より役員の推薦があり ました。全会一致で承認され、新体制の役員(平成26年9月 1日から平成29年9月30日)が決定しましたのでご報告致 します。

また、今後の全国研究大会の開催地候補の見直しも行い、東京、兵庫、栃木、沖縄、新潟、宮城、横浜等々が選定されました。



編集後記

ここにリコ研だより第2号を発行する。今回もコンテスト審査員より御寄稿いただいたことを心から感謝申し上げる。

さて、創立40周年を経て、最初の研究大会が北海道・北 斗市で開催された。次回の40回記念大会は東京で開催さ れる。

永らく、本会の役員としてご尽力いただいた原田彰先生 (鳥取県)が昨年9月末に亡くなられた。(享年84歳)

原田先生は、第3回の全国研究大会鳥取大会(昭和49年11月21~22日)を開催した際の大会役員で、当時は鳥取大学教育学部附属中学校に勤務していた。鳥取大会開

催にあたって、次のように述べている。

「この意義ある会の第3回全国大会を鳥取で引き受けることになったのですが、それは決して私共の地方が立派な研究成果と実践があるというのではなく、むしろ逆にこの機会に全国各地の諸先生方のすぐれた足跡をたずね、そのことが鳥取県の音楽教育、とくにリコーダーを中心とした分野での発展に資すること大であると信じたいです。」

鳥取大会の大会主題は、「歌とリコーダーの一体化を求めて」。設定理由として、「リコーダーに限らず、器楽指導の分野で忘れがちなことは『歌う心』でなないかと思います。楽器の指導技術や楽器による合奏技術は存在しても、これらと『歌う』ことの結びつきがとかく忘れられがちになっています。心から歌うことによりリコーダーも吹け、リコーダーを吹くことによりすばらしい歌となり、聴きとる力、記譜能力へと有機的な指導が行われなければなりません。それによって音楽の基礎能力の充実と音楽性が培われ、リコーダーに親しみをもつことのできる授業に結び付く」と記されている。

どんな楽器でも、歌うことを忘れては音楽から遠く離れて しまう。まして、リコーダーが、せっかく歌唱と深いかかわりをも ちながら、歌うことを忘れがちになるのは残念なことである。

音楽のイメージが心の中にあって、それを楽器を通して表出されてはじめて音楽となることを忘れてはいけない。その 実践がこの鳥取大会で実証されたことは言うまでもない。

原田先生のこれまでの本会への多大なるご尽力と功績 を讃え、謹んでご冥福をお祈りすると共に、心から哀悼の意 を表します。合掌

入会のお知らせ

本会への入会手続きは随時受け付けております。一緒 にリコーダーの花を咲かせましょう!

共に学び、共に成長するリコーダー愛好家の皆さんの 入会を心よりお待ちしております。

本会の会員は次のとおりとする。

- (1)正 会 員 リコーダーを愛好する個人で別に定める 会費を納める者
- (2)研究会会員 各都道府県を単位としたリコーダー教育 研究会をもって組織し、構成員を5名以 上有し本研究会に会員名簿と、会則を 提出できる団体で本研究会が承認した
- (3)会 員本研究会が開催する全国研究大会及 びコンテストで参加資格及び出場資格 を得た個人及び団体で各事業の申し込 みにおいて別に定める会費を納める者

研究会で別に定める会費を納める団体

- (4)維持会員 本研究会の目的に賛同し、別に定める 会費を納める者及び団体
- (5)名誉会員 本会に対し特に功労のあった者のうちから、総会の議決をもって推薦された者。
- (名誉会長、顧問、参与、名誉会員及び相談役の名称で

名簿に記載する。)

会費は、年会費として徴収する。

- (1)正会員一人= 3000円 (ただ) 研究会会員で登録した
 - (ただし研究会会員で登録した者は免除)
- (2)会員一団体= 3000円
- (3)研究会会員一研究会=10000円
- ※研究会会員とは、各都道府県を単位としたリコーダー教育研究会をもって組織し、構成員を5名以上有し、本研究会に会員名簿と、会則を提出できる団体で本研究会が承認した研究会を指す。
- ※研究会会員に所属し、会員名簿に掲載されている者は 正会員と同様の扱いとする。
- (4)会費の納入は、毎年6月末日までに納入すること。 (納入方法は別途定める。)

申し込み先 一

全日本リコーダー教育研究会

〒120-0022 東京都足立区立千寿桜堤中学校内

住所:東京都足立区柳原2-49-1

電話:03-3888-5081 FAX:03-3888-5082

http://www.zenrikoken.com/ Email zen.rikoken@gmail.com